

## 上越医師会の東日本大震災医療支援

上越医師会長

服 部 伸

### JMAT

3チームを派遣しました。それぞれのDrから報告を受けますと、共通しているのは現地でのコーディネイト不足です。混乱は避けがたいところですが、本震災医療を経験して、最適なコーディネイトができる仕組み作りを、日本医師会にお願いしたい。郡市医師会としては、JMATチームを常設するのではなく、本経験をもとにJMATを派遣する場合のマニュアル作りを行いたいと考えています。

### 遠隔避難所の医療支援

上越市2か所、妙高市1か所に主に南相馬市からの避難者が、最盛期約1,500人、収容されました。3か所を開設まもなくの時期に視察してみると、それぞれの避難所の近くには十分な医療機関があり慢性疾患の通院診療はすでに行われていました。また、市の保健師が常駐しており、健康状態把握と健康相談が緻密に行われていました。保健師の方々の過労が心配になるほどでした。行政からは避難所の定期診療について依頼があったのですが、視察の結果からは、避難所の定期診療は、形式的なも

のになると考えられ、行政と相談し、無料健診を行うことにしました。希望者を募り、特定健診と同じ内容を、約250人に施行し、結果相談を行いました。費用は上越医師会が負担しました。遠隔避難所では、投薬等医療行為はできませんので、そこへ医師を派遣するのは、安心を与えると言う漠然とした目的になってしまいます。では、無料健診が良かったかと聞かれると、パフォーマンスだったかなと言う気がします。形式に囚われず、緊急時には無駄な労力とお金をかけない勇気も必要と思いました。

### もし被災地になったら

本震災では、病院単位あるいは個人単位の活動はよく見聞するのですが、郡市医師会の活動状況が分かりません。ぜひ、そこらへんを教えてほしいと思います。

平成19年作成、上越医師会の診療所向け「大震災マニュアル」を読み返しますと、当地区が本震災レベルに襲われたら、ほとんど機能しないだろうと思いました。大震災マニュアルの改訂と訓練実施が、重要な目標となりました。